

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370400976		
法人名	株式会社マザーズ		
事業所名	グループホーム円頓寺		
所在地	名古屋市西区新道1-3-12		
自己評価作成日	令和3年10月29日	評価結果市町村受理日	令和4年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouvoCd=2370400976-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和3年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「本館の住人様を本館の職員が支援する」を事業目標にし、この1年を過ごしてきました「フロアは2階と3階だが全員が本館の住人様である」という気持ちが職員の資質の向上につながり、「チームで支援する」大切さや心の余裕が少しずつできてきた様です。料理の得意な職員が違う階のおじいちゃんに食べやすい料理をおすそ分けしたり、外に出たいおばあちゃんを他のフロアで面倒を見てあげたり、月に一度は全員でおやつを食べたり、コロナ禍で外出できなくても、他フロアに「お出かけ」することで、楽しみを見つけることもできました。ご家族様とはお手紙とともに、LINEやインスタで情報発信をさせていただきました。ビデオ通話では涙ぐむ住人様もいらっしゃり、ご家族様との絆の大切を実感しました。地域の方や役所の方、提携医療機関その他関係各所の皆様には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者全員が法人理念の「人生楽しく自分らしく」の生活が営めるように、全利用者を全職員で見守り支援する体制が敷かれている。利用者は2階・3階の居住スペースを歩き来し、職員同士フォローしながら利用者に寄り添って自由に活動できるような支援に取り組んでいる。
コロナ禍にありながら感染防止対策を施し、行政のほか自治会長や民生委員、利用者家族代表や法人内他ホームの管理者、時には消防署職員も参加して避難訓練を実施するなど、対面での有意義な運営推進会議を開催している。また、11月は「おでかけ月間」とし、遠出の散歩や外食、買い物など外出する機会を増やして地域との交流を深めている。11月11日の「介護の日」を前に、CBCラジオで介護施設紹介をするなど広報活動にも注力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍で地域行事はなかったものの散歩、買い物、喫茶店でのモーニングなど地域に出かけてご挨拶させていただいています。地域運営推進会議、本館でのイベント、防災訓練などに参加いただき、つながりを継続しています。	法人理念「人生楽しく自分らしく」に基づき、利用者が楽しく自由に生活できるよう支援している。職員と共に独自のホーム理念を現在策定中である。利用者がより豊かな生活を継続できるよう、職員全員で支援している。	ホーム理念を実践するため、理念に沿った年間活動目標を策定し、実施して評価する事を期待したい。それにより、策定した理念が利用者の生活の質の向上に寄与することとなる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	喫茶店に出かけたり、散歩をしたり、花壇の手入れをすると「きれいに花が咲いているね」など声をかけてくださるご近所さんがいます。	自治会長や民生委員が運営推進会議に参加し、地域情報が得られている。幼稚園とは移設前からの「やきいも交流」を継続している。近隣の小学校・中学校からも福祉体験を受け入れるなど、良好な地域交流が継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議などで地域の方に理解、支援の方法について話をしています。お散歩、喫茶店に出かけたり、花壇で夏野菜を作るのにアドバイスを下さったり、認知症への理解を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長様、ご家族様、民生委員様、いきいき支援センターの方には積極的に参加くださり、率直な意見を頂いています。地域防災協力の地域提携を結んでいて、防災訓練を一緒に行うこともある。	コロナ感染対策を万全にして、2ヶ月毎に地域住民やいきいき支援センター（地域包括支援センター）も参加して対面の運営推進会議を開催している。消防署員も参加して会議内で消火訓練を実施し、助言・アドバイスを得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所の方、社会福祉協議会の方などの訪問があり、利用者の生活を支えている。	生活保護者や障害者も利用しており、各種手続きで担当窓口に出向いたり、担当者も訪問するなど良好な協力関係を継続している。社会福祉協議会からの声掛けで、利用者が作品展に出品する準備をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外は施錠せず、ご利用者様の外に出たいという気持ちを極力阻害しないようにしている。皆で協力しながらご利用者様の安全を見守りながら対応している。	「身体拘束適正化のための指針」やマニュアルを策定している。身体拘束の必要があれば、家族の同意を得たうえで期間設定し、記録を保管する手順としているが、現在対象者はいない。不適切ケアを予防し、利用者の自由を阻害しない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	弊社で身体的拘束適正化委員会を立ち上げている。3か月に1回参加している。委員会で上がった項目を持ち帰り、日々身体拘束になっていないかどうかをユニット会議等で検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護団体と契約しているご利用者様がいます。月に1度は来設されるのでそのつど近況報告をしている。そのご利用者様の通院などにも同行して下さることもあり、職員への理解は徐々に浸透している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に話す内容について会社と討議してご利用者様、ご家族様を交えて懇切丁寧に説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々ご意見を伺うようにしているが、定期的にご利用者様やご家族様からアンケートを取り、職員に公表し必要があれば会議などで話し合っている。地域運営推進会議にご家族様が参加して下さる。	運営推進会議に家族代表も参加している。面会時や連絡時には個別に意見や要望を聞き取っている。SNSを利用して利用者の近況を報告し、意見・要望の出し易い環境づくりにも取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員アンケートや、ユニット会議、面談などで職員の意見や提案を聞いている。マニュアル改訂につなげたり、エリアマネージャーに意見を上げたりすることもある。	面談や日常業務の中で、職員から提案や要望の聞き取りを行っている。ケア日誌の様式改善や利用者への支援方法などについて、職員意見も聴取しながらユニットリーダーが中心となって検討・実施に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談を行っている。賞与時には自己評価と職員アンケートなどを用いて管理者、スタッフ共に成長できるツールを設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの関係で、ネット配信形式で研修を受けている。全従業員が月に必ず1講座を受け管理者が会社に提出する。社外研修、初任者、実践者、実務者では会社からのサポートが充実している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区内のコンソーシアムはコロナの影響ですべてがキャンセルになった。外部研修では同業他社の職員と交流する機会がある。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居間もない頃の不安の心理状況を理解し、帰りたいなどの気持ちを否定せず、傾聴することで少しずつ信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の来設時には積極的にお声掛けし、日々の様子を話します。最近ではLINEや直接お電話させていただき、些細なことでも話していただけるよう機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント等の情報や、ご本人とご家族様双方のお話し、ご様子から支援の方向を見極めるようにしています。ゆっくりと環境に慣れていただけるようコミュニケーション密にとっています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で職員がすべてを行わず、洗濯物を一緒に畳んだり、食器を拭いたりご利用者様の「できること・したいこと」を少しでも実現できるように一緒に楽しみながら行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様、家族様、双方よりお話を頂きやすいような環境を整え、それぞれの家族様にあったかわりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご親戚の方が面会に来てくださった時にはゆっくりとお話できる環境を整えています。	地元利用者も多く、散歩や買い物での挨拶は日常となっている。新聞購読や読書、編み物、炊事など、各自の生活習慣がホーム内でも継続できるように取り組んでいる。居室でチューハイを愛飲する利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングで皆で「水戸黄門」を見るのが日課になっている。くしゃみをするとか「だいじょうぶ？」といつてすぐにティッシュを取ってあげたり、洗濯物を皆で畳んだり、ご利用者様相互が協力しながら楽しく暮らしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りをさせていただきましたご利用者様のご家族様が弊社の他の事業所に入居されており、管理者会議などでその後の様子などを伺っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望に沿った生活作りに努めています。共同生活とはいえ、個性を大切にできる範囲で個別対応させていただいています	利用者との関わりを多く持ち、声掛けや日頃の生活の中から思いや意向の把握に努めている。本人の思いや意向に繋がる「食べたい物」や「行きたい所」などに関する発語や表情・仕草は、仔細にケア日誌に記録し情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントとともに、ご本人、ご家族様などから情報を集めることにも力を入れている。そこで得た情報を職員で共有しプランや生活に反映できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調やお気持ちは変化することを念頭において、様子を職員間で申し送りをし、共有しています。心身の状況に合わせて臨機応変に対応できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは現場スタッフが中心となり、その人らしい介護計画を目指している。ご家族様に聞き取りをしたり、カンファレンスを行い支援の方向をご本人、ご家族様、医療関係者とともにチームで考えている。	利用者毎のケア日誌に、介護計画に基づいた目標の明記、評価を毎日行っている。毎月のユニット会議でモニタリングを行い、状態の変化があれば即時、なければ6ヶ月毎に家族の要望も取り入れて見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌の様式を変更し、ご利用者様個々の目標が見える化しました。ユニット会議で実践できたか？課題は何か？など積極的に話し合えるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍でご家族様と面会できず不安定になられるご利用者様もいらっしゃる、SNSを使った面会や、好きな食べ物を差し入れてくださるようお願いしたり、個々の願いに可能な限り答えていけるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方ボランティアの方が、ご利用者様と喫茶店にモーニングに出かけたりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際にはご家族様にも相談し主治医の意見も伝え、納得のいく医療を受けられるように支援しています。	利用者全員がホーム協力医をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を受診している。希望があれば、歯科診療や口腔ケアも受けることができる。専門科への通院は家族対応を原則とするが、臨機応変な対応に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回専属の看護師が入り、ご利用者様の健康状態を把握している。管理者、スタッフはご利用者様の近況の報告、相談をしている。急な体調の変化があった時には随時連絡し、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様の基本情報を速やかに病院へ連絡できるようにファイルを準備している。また地域連携室がある病院とはFAXでやり取りする仕組みができており、迅速に受診できる体制が整っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについてご本人、ご家族様に書面にて説明している。終末期には再度可能であればご本人、ご家族様の意向を確認。医療介護連携し、ご本人らしく終末期を迎えていただけるように取り組んでいます。	今年度は看取り実績はないが、看取り支援をする方針は入居時に説明している。重度化に伴い、家族と医師も含めて支援方針を決めている。ホーム内では急変時にも対応できる設備も備え、「その人らしい最期」が迎えられように取り組んでいる。	新入職員など看取り経験のない職員もいるため、利用者が看取り対象となった際などを機に「看取り支援」の職員研修を実施し、職員フォローを行うことが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し常時見えるところに掲示している。ユニット会議などでも確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回訓練を行っている。非常食、常備水など防災グッズを常備している。本館の防災訓練に地域の方が参加してください。地域運営推進会議でも近隣の最新情報などを確認している。	年2回、夜間の火災想定で初期消火から避難誘導の訓練を実施している。直近では、消防署員も参加した運営推進会議内で通報訓練も実施している。地域防災協力事業所となり、地域との協力体制もとられている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	eラーニングで学んだことを、ユニット会議で話し合い、尊厳のある言葉使いを再確認しました。	法人の年間教育計画に沿って権利擁護やプライバシー、接遇などの研修を行い、職員への理解浸透を図っている。言葉遣いや支援方法など、利用者に何事も強要せず、自由な生活が営めるように取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の場面でご本人と話し合いながら決めたり、食事や更衣時にはどれが良いか？を選んでいただく場面もある。選択の場を多く持つことで表出しやすい場面作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務内容、時間は限られており、その範囲内で行うときにともすると、職員都合になってしまいがちであるが、チームで取り組むことで、お一人お一人のペースで過ごしやすい日々を送っていただけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人と一緒に選んだり、時にはご自身で選択できる場面を作っている。ご家族様に好みのお洋服を持ってきてくださるようにご連絡することもあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や盛り付け、食器の下膳、食器洗いなどできる範囲でお願いし、一緒に行うことがある。全員がお好きなメニューではないので、時には個別対応したり、「何が食べたいですか」とお聞きすることもあります。	夕飯は配食サービスを利用しているが、朝食・昼食は職員が利用者の希望も聞きながら、食材からメニューを決めて調理・提供している。おやつレクなども行い、利用者と楽しみながら食が進むよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量をケア日誌に記載するようにしました。脱水になりやすい方、カロリーを控えめにしないといけない方、逆に、小食な方など様々な方の食事に気を付けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士による月1回の口腔衛生講習を受け、口腔ケアの大切さを学んでいます。口腔ケアが嫌なご利用者様が多く、毎日の声掛け、行い方に工夫しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄パターンを知り、適宜トイレ誘導や声掛けをしています。リハパンを使用されている方については皮膚観察をしっかり行い、尊厳のある支援を行うよう努めています。	排泄自立の利用者は、見守りを基本としている。支援の必要な利用者は、チェック表も利用して個別のタイミングで声掛け・誘導している。夜間は睡眠を優先した支援に努め、安全に配慮してポータブルトイレも利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による健康、精神的影響を職員間で話し合っています。薬に頼らず気持ちよく排泄していただけるよう、職員は食事や飲み物の工夫を常に行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気持ちの状態に応じて臨機応変に対応している。時間の希望にも対応しています。拒否の強いご利用者様には無理強いをせず、気持ちよく入浴するための方法をユニット会議などで相談しています。	週3回の入浴機会を設けている。各自好みのシャンプーや保湿剤を利用するなど、個別対応にも配慮している。リフト浴も設置し、利用者・職員の負担を減らしながら重度化しても寛いで入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はご利用者様の選択に任せているものの、メリハリのある1日を過ごしていただくために就寝の声掛けをさせていただくこともあります。寝付けないときにはゆっくりとお話を聞くなどしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を職員がすぐにみられるような場所に置いてあります。服薬事故を防ぐために専用ボードを活用しています。処方箋の変更があれば、それに伴う症状の変化があることを必ず申し送ります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調を見ながら、散歩に出かけたり、花壇の水やり、脳トレゲームや棒体操、作品作りなど趣味や役割を意識した支援を心がけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に出かけたり、ボランティアさんに手伝ってもらいモーニングに行ったりしました。コロナが少し落ち着いた時にはご家族様と実家に泊られたご利用者様もいらっしゃいました。	ホーム周辺の散歩や食材の買い物、地域ボランティアの協力を得てモーニングに出かけるなど、外出する機会が多い。雨の日でも屋内駐車場を歩いたり、花壇の手入れをするなど、外気に触れ気分転換もできている。個別となるが、外食ドライブに出かけた利用者もいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の個人的なお金は事務所で管理しており必要な時にはその都度お渡しし、スタッフも同行します。ご家族様にもお金の使い道は報告させていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちのご利用者様が連絡を取りたいとの申し出があればスタッフが操作することもあります。絵手紙やはがきがご家族様、ご親戚から届くのでお返事をしたいのでご本人と練習したいと思っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間でくつろいでいただけるようテーブルの位置を変えたり、席替えをしたりご利用者様にとって居心地のよい空間となるようにしています。玄関には季節の花を植え、水やりついでに気分転換していただけるよう努めている。	ホームの2階・3階が居住スペースで、利用者はエレベータを使って自由に行き来している。1日2回、職員が清掃を行い、各所をアルコール消毒して清潔感を保っている。利用者が自由な時間を過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席はだいたい決まっているものの、気の合った方がお話できるよう時々声掛けをさせていただいています。洗濯物を畳むときには女性陣が仲良く話をしながら作業されることが多く楽しそうです。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心がけ、居室はなるべく広く使っていただけるようにしています。お家から馴染みのものを持って来られる方がほとんどで、その方の昔話を聞くこともしばしばです。	生活環境が継続できるよう、馴染みの物を持ち込んでいる。居室でテレビや読書を楽しんだり、毎朝仏壇に手を合わせたり、毎晩チューハイを飲むなど、利用者が自分の時間を思い思いに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はすべてバリアフリーなので自由に車いすでも移動できます。転倒するようなものはかたづけ、見守りしながら「できる事」を継続していただけるよう努めています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370400976		
法人名	株式会社マザーズ		
事業所名	グループホーム円頓寺		
所在地	名古屋市西区新道1-3-12		
自己評価作成日	令和3年10月29日	評価結果市町村受理日	令和4年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyousoCd=2370400976-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和3年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「本館の住人様を本館の職員で支援する」を目標にし、この1年を過ごしてきました。「フロアは2階と3階に分かれているが全員が本館の住人様である」という気持ちが職員の資質の向上につながり、「チームで支援する」大切さや心の余裕ができてきたようです。実際2フロア両方で勤務する職員も多く、月1回の全員参加のイベントの時などでまごつくこともなく忙しいときには他フロアの分まで昼食を作ってくれる時もありました。7月には恒例の「流しそうめん」を今年は18人全員で行うことができました。10月の運営推進会議と防災訓練の時には焼き芋会もかねて、地域の方と住人様で楽しく話をすることもできました。コロナ禍でしたが、LINEやインスタで家族様とつながるようになりました。職員、地域の方々、役所の方、医療関係者、いろいろな方に支えられて住人様の支援ができた年であったと感謝しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍で地域行事は中止であったが散歩や買い物、朝の喫茶店でのモーニングなど地域に出かけてご挨拶させていただいています。地域運営推進会議、本館でのイベント、防災訓練などに参加いただき、つながりを継続しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物に出かけると、馴染みのご近所さんから「〇〇さん元気?」「おじさん久しぶり」など声をかけてくださいます。施設に「これも使って」とプランターをくださる方もみえました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議などで地域の方に理解、支援の方法について話をしています。お散歩、喫茶店に出かけたり、花壇のお花や野菜の育て方のアドバイスを下さったり、認知症への理解を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、ご家族様、民生委員様、いきいき支援センターの方には積極的に参加くださり、率直な意見をいただいています。地域防災協力の地域提携を結んでいて、毎年一緒に防災訓練を行います。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方もおられるので、役所とよく連絡を取ります。いきいき支援センター様からのご紹介で入居された方もおみえです。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外は施錠せず、ご利用者様の外に出たいという気持ちを極力阻害しないよう様にしている。皆で協力しながらご利用者様の安全を見守りながら対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	弊社で身体的拘束適正化委員会をたちあげている。3ヶ月に1回参加している。委員会で上がった項目を持ち帰り、日々身体拘束になっていないかどうかをユニット会議などで検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護団体と契約しているご利用者様がいます。月に一度は来設され、そのつど近況報告をしている。職員も制度について、徐々に理解を深めていると考えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に話す内容について会社と協議してご利用者様、ご家族様を交えて懇切丁寧に説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々ご意見を伺うようにしているが、定期的にご利用者様やご家族様からアンケートをとり、職員に公表し必要があれば会議などで話し合っている。地域運営推進会議にご家族様が参加してくださる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員アンケートやユニット会議、面談などで職員の意見や提案を聞いている。マニュアル改訂につなげたり、エリアマネージャーに意見を上げたりすることもある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談を行っている。賞与時には自己評価と職員アンケートなどを用いて管理者スタッフ共に成長できるツールを設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの関係でネット配信形式で研修を受けている。全従業員が月に必ず1講座を受け、管理者が会社に提出する。社外研修、実践者、実務者では会社からのサポートが充実している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区内のコンソーシアムはコロナの影響ですべてがキャンセルになった。外部研修では同業他社の職員と交流する機会がある。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居間もない頃の不安の心理状況を理解し、帰りたいなどの気持ちを否定せず、傾聴することで少しずつ信頼関係を築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の来設時には積極的にお声掛けし、日々の様子を話したり、ゆっくりお話しいただける時間を確保している。LINEでのやり取りも多く、時間を気にせずご要望などをお聞きしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント等の情報だけでなく、直接ご家族様とゆっくりお話しできる時間を確保しています。小さな変化でもお伝えするべきことがあれば、お電話差し上げたり、連絡を密にとることに努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で職員がすべてを行わず、洗濯物を一緒に畳んだり、食器を洗ってくださったり、トイレ掃除をしてくださるご利用者様もみえます。感謝の気持ちと役割のある生活を大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なかなか面会に来られないご家族様とはLINEビデオ通話やお手紙などで日々のご様子をお伝えしています。面会ついでにモーニングに出かけたり、季節ごとに洋服の衣替えに来てくださることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同じ学区で生まれ育ったご利用者様は近所のお宅に遊びに出かけたりします。入居前からのご友人が訪ねてこられたり、関係を継続できるように努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	元気なご利用者様が、食の細いご利用者様に「これ美味しいで食べてみて」と声掛けしてくださったり、一緒に洗濯物を畳んだり、アットホームな雰囲気づくりに努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたため退去されたご利用者様のご家族様とは、その後も連絡を取りあい、お怪我の状況やリハビリのことなどをお話しくださいます。またぜひ本館に入居したいといってください、順番待ちをされています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望に沿った生活作りに努めています。共同生活とはいえ、個性を大切に、できる範囲で個別対応させていただいています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントとともにご本人、ご家族様などから情報を集める事にも力を入れています。そこで得た情報を職員で共有しプランや生活に反映できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調やお気持ちは変化することを念頭において様子を職員間で申し送りし、共有しています。心身の状況に合わせて臨機応変に対応できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは現場スタッフが中心となり、その人らしい介護計画を目指している。ご家族様に聞き取りをしたり、カンファレンスを行い支援の方向をご本人、ご家族様、医療関係者とともにチームで考えている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌の様式を変更し、ご利用者様個々の目標が見える化しました。ユニット会議で実践できたか？かたひは何か？など積極的に話し合えるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍でご家族様と面会できず不安定になられるご利用者様もいらっしゃる、SNSを使った面会を行ったり、好きな食べ物を差し入れてくださるようお願いしたり、個々の願いに可能な限りこたえていけるよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方と一緒に、ご利用者様と喫茶店にモーニングに出かけたりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際にはご家族様にも相談し、主治医の意見も伝え、納得のいく医療を受けられるように支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回専属の看護師が入り、ご利用者様の健康状態を把握しているので、管理者、スタッフはご利用者様の近況の報告、相談をしている。急な体調の変化があったときには随時連絡し、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様の基本情報を速やかに病院へ連絡できるようにファイルを準備している。また、地域連携室がある病院とはFAXでやり取りする仕組みができており、迅速に受診できる体制が整っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについてご本人、ご家族様に書面で説明している。終末期には再度可能であればご本人、ご家族様の意向を確認。医療介護連携し、ご本人らしく終末期をむかえていただけるように取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し常時見えるところに掲示している。ユニット会議などでも確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回訓練を行っている。非常食、常備水などの防災グッズを常備している。秋の防災訓練には地域の方が参加してくださいました。地域運営推進会議では近隣の最新情報などを確認している。		

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	eラーニングで学んだことを、ユニット会議で話し合い、尊厳のある言葉使いを再確認した。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の場面でご本人と話し合いながら決めたり、食事や更衣時にはどれがよいかを選んでいただく場面もある。選択の場を多く持つことで表出しやすい場面作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務内容、時間は限られており、その範囲内で行うときにともすると、職員都合になってしまいがちであるが、チームで取り組むことで、お一人お一人のペースで過ごしやすい日々を送っていただけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人と一緒に選んだり、時にはご自身で選択できるよう場面を作っている。ご家族様に好みのお洋服を持ってくるようにご連絡することもあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の下膳、食器洗いなどできる範囲でお願いし、一緒に行うことがある。全員がお好きなメニューではないので、時には個別対応したり「何が食べたいですか」と聞かせていただくこともあります。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量をケア日誌に掲載するようにしています。脱水になりやすい方、カロリーを控えめにしないといけない方、逆に小食で低栄養な方など様々な方の食事に気を付けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士による月1回の口腔衛生講習を受け、口腔ケアの大切さを学んでいます。口腔ケアが嫌いなご利用者様には、スポンジや専用うがい薬など工夫しながらケアさせていただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄パターンを知り、適宜トイレ誘導や声掛けをしています。訪問マッサージ、リハビリの先生と立位に特化したメニューを行っていただき、パット内でなくトイレで排泄できるよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による健康、精神的影響を職員間で話し合っています。薬に頼らず気持ちよく排泄していただけるよう、職員は食事や飲み物の工夫、運動などに力を入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気持ちの状態に応じて臨機応変に対応している。時間の希望にも対応している。拒否の強いご利用者様には無理強いせず、気持ちよく入浴するための方法をユニット会議などで相談しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はご利用者様の選択にまかせているものの、メリハリのある1日を過ごしていただくために就寝の声掛けをさせていただくこともある。寝付けないときにはゆっくりとお話を聞くなどしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を職員がすぐにみられるような場所に置いてあります。服薬事故を防ぐために専用ボードを活用しています。処方箋の変更があれば、それに伴う症状の変化があることを必ず申し送ります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調を見ながら散歩に出かけたり、花壇の水やり、脳トレゲームや棒体操、作品作りなど趣味や役割を意識した支援を心がけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に出かけたり、ボランティアさんに手伝ってもらいモーニングに出かけたりしました。実家が近所にある方は時々心配になって「見に行きたい」ので、ご家族様に許可をいただき職員と出かけます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者の個人的なお金は基本的には事務所で預かっている。ご自分の手元にもっていた方については、ご家族様と相談しています。そのお金で床屋に行ったり、おやつを買ったりして嬉しそうでした。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちのご利用者様がおられ、自由にご家族様と連絡をされています。必要であれば管理者から連絡を差し上げます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には誰でも座っていただける大きなソファがあり、そこでのんびり過ごされる方や、おしゃべりをされる方がいらっしゃいます。日当たりもよく、「日光浴」される方もいます。花壇には季節のお花をみんなで植え、水やりします。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席はだいたい決まっているものの、気の合った方がお話しできるよう時々声掛けをさせていただいています。洗濯物を畳むときには女性陣が仲良く話しながら作業されることもあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心がけ、居室はなるべく広く使っていただけるようにしています。お家から馴染みのものを持って来られる方がほとんどで、その方の昔話を聞くこともしばしばです。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部分はすべてバリアフリーなので自由に車いすでも移動できます。転倒するようなものはかたづけ、見守りしながら「できる事」を継続していただけるよう努めています。		